

2018年度、山形県は国の定める基本理念に沿ったアルコール健康障害対策推進計画を策定しました。暮らしに身近なアルコール飲料の不適切な摂取による健康障害の発生や依存症への罹患がないよう、県民一人ひとりが正しい知識のもとに関心と理解を深めることが大切であると指し示しています。

2017年及び2018年の実績を引き継ぐ『依存症を正しく知ろう 県民フォーラム2019』では、私たちに身近な「家族と依存症」にスポットをあてます。依存症を抱える親のもとで育った子どもが、青年期や成人へと成長する過程で、気分障害や摂食障害などのメンタルヘルス課題に直面したり、偏見と恥辱が渦巻くコミュニティから排除され孤独を感じる場面も少なくありません。依存症の進行と共に巻き込まれ、さらに世代を超えて伝播する「生きづらさ」からどう自由になるか。希望ある再出発の可能性について、回復当事者や支援者と共に体験を語り合い、知恵を分かち合う機会とします。

講演

菊池 真理子 さん

漫画家。作品発表後、大きな反響を呼んだエッセイコミック「酔うと化け物になる父が辛い」を代表作とし、他に「毒親サバイバル」(KADOKAWA)、「生きやすい」(秋田書店)など、単行本多数。現在は、月刊エリガンスイブ(秋田書店)で「依存症ってなんですか?」を連載中。



はじめまして。菊池 真理子です。



「酔うと化け物になる父が辛い」
一実は、そう言えるようになったのは、1話目の反響をいただいた後からです。

それまでは「酔った父はイヤだけど、このくらいなら普通の範囲じゃないか」との思いが拭いきれずにはいました。

けれど「うちも同じ」「私も困っています」といったたくさんのお声を頂戴し、ようやく私も「つらかった」と言えていいんだと、心の底から思えるようになったのです。

家族が泥酔する問題は、それほどまでに当事者にとっても、わかりにくいものだと感じます。

この本が家族の飲酒に苦しんできた方や、今も泣かされている方、どうしたらいいかわからない子どもたちの存在を知るきっかけとなり、今後を考えるための一助となってくれたら、作者として体験者として、これ以上の幸せはありません。



トークセッション

高橋 ふき さん

(北村山断酒会・家族会 代表)

1949年生まれ。5人兄妹の末っ子。何の苦勞も反抗もせず大人になり、46年前、家族の反対を押し切って夫と結婚。夢のような生活が始まる筈でした。アルコール依存症の夫と共に30年、山あり谷あり地獄ありでした。それはまた私自身の生きづらさと向き合えるようになった人生でもありました。



近藤 京子 さん

(一般社団法人オンプレ・ジャパン 代表理事)

ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)発行:季刊Be!の編集を19年勤めた後、アディクション支援を行なうべく、一般社団法人オンプレ・ジャパンを立ち上げたところです。私自身、アディクションの影響を受けて育った家族です。みんなで本音で話し、楽になりましょう!



小関 清之 さん

(医療法人社団斗南会秋野病院 地域連携室長)

凡そ35年前、未だ資格の無かった時代の精神科ソーシャルワーカーとして「もっとも虐げられ不当な扱いをされている依存症のクライアントにかかわろう」と決めました。希望は、絶望を分かち合うことから見出せるのかもしれませんが。正直な語りをする人たちを排除しない、孤立させない社会へと変えていくことが私の責務と思っています。



依存症は、生活の歪みに棲み着きやがて生活全体を覆い尽くす



山形県依存症関連問題研究会 (通称:いも研)

アルコール依存症、ギャンブル等依存症、薬物依存症の発生・進行・再発等の予防と回復支援に寄与する専門職人材の資質向上や一般市民に向けた啓発活動などを目的として結成されました。県内の医療機関や行政機関などで働く、精神保健福祉士・保健師・看護師・臨床心理職・社会福祉士等で構成。「地域変革」のため、発信・行動し続けるネットワーク・グループ。自助グループとの緊密な『協働』を大切に!



山形県依存症関連問題研究会

「出来る事・出来ないこと」を尊重しに交わし合うの「回復を支援する『対等な連携』をキーワードに当面の一手を踏み出すネットワーク

人と性差の中で育った生き生きとした人生を 原因を探るより、理解し、生活のセーフティを構築するネットワーク支援